

薬草園だより

令和元年 [8月号]

2019 / 7 / 25

薬用植物園
愛草会 作成

ゴボウ(牛蒡) [キク科 多年草]

7~8月にかけて棘のある花を咲かせます。
乾燥させた種子は生薬で『牛蒡子
(ゴボウシ)』と呼ばれます。

解毒、解熱、去痰、鎮咳作用があるため
風邪や皮膚病に使われます。乾燥した根
を煎じたごぼう茶はノンカフェインで

ミネラルや食物繊維が豊富で、
便秘解消にも効果があります。

有名な『きんぴらごぼう』に欠かせない
食材ですが、金太郎『坂田金時』の息子
『坂田金平(さかたのきんぴら)』が名前の

由来なんです。剛力だった金平にあやかり『精のつく食べ物』として
ゴボウを食べると金平のように力持ちになれるためそう呼ばれるよう
になりました。



キキョウ (桔梗) [キキョウ科 多年草]

7~8月に風船のようなつぼみから
少し広がった釣鐘状の花を咲かせます。

『根が結(桔)実して硬(梗)い』ことから
この名前がついたとされています。

乾燥させた根を生薬に用い、
鎮咳・去痰作用、抗炎症作用や抗菌作用
があります。身近なものでは、龍角散や
浅田飴に配合されています。

万葉時代には『アサガオ』と呼ばれ、
秋の七草にも数えられる植物です。

また『舟楫(しゅうしゅう)の劑』
とも呼ばれ、漢方方剤の作用を
治療目的部位へ運ぶ役割を担い、
桔梗は特に、上方に運ぶ働きを持つ
といわれます。



カワラナデシコ (河原撫子) [ナデシコ科 多年生]

7~10月頃にかけて花を咲かせます。花の名前の由来は

『我が子を撫でるように可愛らしい花』
という意味から名づけられました。

乾燥した種子は生薬名で『瞿麥子(クバクシ)』
と呼ばれ、消炎・利尿・生理不順などの
効果があります。しかし多量に摂取すると
流産の危険があるので妊婦には要注意です。
カワラナデシコは秋の訪れを知らせる
秋の七草のひとつとしても有名です。

『万葉集』や『枕草子』にも登場する花です。
女子サッカーの『なでしこジャパン』の
名前にも使われ、清楚で凛とした美しさを持つ
日本女性をあらわす『大和撫子』から
名づけられました。



トウキ (当帰) [セリ科 多年草]

6~8月にかけて小さな小花をつけます。
名前の由来は、病弱な女性がこれを服用すると
元気になり、産後の肥立ちが悪い女性が
実家から夫の元へ帰ってくる事ができた、
あるいは自分から離れていった夫が戻って
きたなど諸説ありますが、
どれも当帰が漢名で『当(まさ)に帰る』と
読まれることに基づいています。
乾燥した根を生薬として用います。
鎮痛、鎮静、補血などの効果があり、
婦人病に広く用いられます。
葉や茎はセロリに似た風味があるので
スープのレシピも数多く紹介されています。



191103	三上	桜櫻	191111	柳田	美咲
191114	山口	紗	193061	佐原	悠亜
181099	藤本	凧			
薬草園	設楽	満希	園長	榊原	巖